

生活援助従事者研修カリキュラム及び日程表

研修期間 令和2年6月2日～令和3年12月7日

項目	通学日時 (時間)	通信 相当 分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	職	
1. 職務の理解 【基準時間2時間(うち通信上限0時間)】						
【(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解】 ・オリエンテーション ・超高齢社会日本の現状	R2年6月2日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・生活援助従事者研修の目的を知り、年間の取り組みについて大まかな計画を把握する。また、個人目標を立てる。 ・日本の人口や高齢化率について理解する。
【(1)多様なサービスの理解】 ・介護保険制度の創設の背景と意義 ・介護保険制度の概要	R2年6月9日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・介護保険サービスの創設の背景を理解する。 ・介護保険サービスの申請から利用までの流れを理解する。
【(1)多様なサービスの理解】 ・多様なサービスの理解①	R2年6月30日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・介護保険サービスの概要を理解する。 ・家事援助の内容を理解する。
【(1)多様なサービスの理解】 ・多様なサービスの理解② ・単元テスト①	R2年7月7日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・班に分かれて①居宅型サービス②通所型サービス③訪問型介護サービスのサービス内容や1日の流れを調べる。その際、地域の高齢者施設のパンフレット等を活用することで、具体的なイメージを理解する。 ・単元テストを行い、7割の正答を目指す。
【(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解】 ・施設見学	R3年4月26日 9:30～11:30 (2時間)	時間	高齢者施設	[3] 永田 明日香	セ	・高齢者施設の見学を行い、利用者の様子や介護職の職務、施設の概要について理解する。
小 計	14時間	時間				
2. 介護における尊厳の保持・自立支援 【基準時間6時間(うち通信上限3時間)】						
【(1)人権と尊厳を支える介護】 ・人権と尊厳を支える介護①	R2年7月14日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	・日本国憲法11・13・14・25条を理解する。 ・例題からICFについて考え、利用者のプラス面に目を向けた支援の重要性を理解する。
【(1)人権と尊厳を支える介護】 ・人権と尊厳を支える介護②	R2年9月8日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	・例題からQOLについて理解する。 ・高齢者虐待防止法・個人情報保護法から介護職としての職業倫理を考える。
【(2)自立に向けた介護】 ・自立に向けた介護	R2年9月15日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	・自立支援にかかわる介護職の役割を事例から理解する。 ・単元テストを行い、7割の

項目	通学日時 (時間)	通信 相当 分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要	
・単元テスト②						正答を目指す。
小 計	9 時間	時間				
3. 介護の基本 【基準時間4時間(うち通信上限2.5時間)】						
【(1)介護職の役割、専門性と他職種との連携】 【(2)介護職の職業倫理】	R2年10月27日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険法第1条から、根拠ある介護について考える。 福祉専門職と保健・医療専門職の仕事内容を班に分かれて調べる。班ごとに発表し、共有する。
【(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント】 【(4)介護職の安全】 ・単元テスト③	R2年11月10日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	<ul style="list-style-type: none"> 事故に結びつく要因を事例から探り、リスクマネジメントを考える。 感染症について理解し、手の汚れの付着を意識した正しい手洗いの仕方を身につける。 ストレスマネジメントについて理解し、自分のストレス解消法を見つける。 単元テストを行い、7割の正答を目指す。
小 計	6 時間	時間				
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 【基準時間3時間(うち通信上限2時間)】						
【(1)介護保険制度】 ・介護保険制度のしくみの基礎的理解	R2年11月17日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネジメントの流れを理解する。 地域包括ケアシステムの推進について理解する。 介護給付と予防給付の種類を理解する。 要介護認定の手順を理解する。 財政負担について理解する。 新聞等活用し、熊本県の介護状況等を把握する。
【(2)医療との連携とリハビリテーション】 【(3)障害福祉制度及びその他の制度】	R2年11月24日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	<ul style="list-style-type: none"> 熊本県の事業所を例に1日の流れを示し、訪問介護の業務を理解する。 障害福祉制度を障害者基本法から理解する。 障害者総合支援法に定められた制度の申請から支給決定までの流れを理解する。 生徒自身の障がい受容の度合いに配慮して学習を進める。
・振り返り ・単元テスト④	R2年12月1日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストを行い、7割の正答を目指す。
小 計	9 時間	時間				

項目	通学日時 (時間)	通信 相当 分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	職	
5. 介護におけるコミュニケーション技術				【基準時間6時間(うち通信上限3時間)】		
【(1)介護におけるコミュニケーション】 ・コミュニケーションの意義・目的・役割	R2年12月15日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイを通して、受容・傾聴・共感の姿勢を身につける。
【(1)介護におけるコミュニケーション】 ・コミュニケーション演習	R2年12月22日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	<ul style="list-style-type: none"> ・言語・非言語コミュニケーションの特徴を理解し、相手のニーズに気付く。
【(2)介護におけるチームのコミュニケーション】 ・介護におけるチームのコミュニケーションの実際 ・単元テスト⑤	R3年1月12日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	<ul style="list-style-type: none"> ・介護記録の意義と目的を理解する。実際の介護現場で使われている記録様式を見て、イメージをもつ。 ・報告、連絡、相談の意義を理解する。 ・単元テストを行い、7割の正答を目指す。
【(1)介護におけるコミュニケーション】 ・高齢者との実際のコミュニケーション(実習)	R2年10月13日～10月26日 9:30～11:30 (2時間)	時間	健軍くらし ささえ愛工 房おーさあ	[3] 永田 明日香	セ	<ul style="list-style-type: none"> ・10月13日、19日、20日、26日に高齢者施設で実習をする。生徒が多いので、1回につき3人が実習先へ行く。 ・レクリエーション補助、その他の付帯業務を実習する。
小計	11時間	時間				
6. 老化と認知症の理解				【基準時間9時間(うち通信上限5時間)】		
【(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常】 【(2)高齢者と健康】	R3年1月19日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	<ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴うからだの変化が、日常生活に及ぼす影響を理解する。 ・高齢者体験キットを活用する。 ・高齢者の疾病の特徴と、高齢者に多い疾病を理解する。※循環器障害・うつ病・肺炎・感染症 ・教材として型抜き絵本シリーズを用いてからだの仕組みを視覚的に理解する。
【(3)認知症を取り巻く状況】 【(4)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理】	R3年2月9日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	<ul style="list-style-type: none"> ・パーソンセンタードケアについて理解する。 ・認知症の定義について理解する。
【(4)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理】	R3年2月16日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の病態や症状、経過、ケアのポイントを理解する。 ・アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小

項目	通学日時 (時間)	通信 相当 分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要	
【(5)認知症に伴う こころとからだの変 化と日常生活】						<ul style="list-style-type: none"> 体型型認知症の特徴を理解する。 認知症の中核症状と周辺症状を理解する。 事例から認知症の理解を深め、コミュニケーションのポイントを理解する。
【(5)家族への支援】 ・認知症の理解	R3年2月22日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	<ul style="list-style-type: none"> 熊本県「認知症サポーター養成講座」を受けることで、認知症を正しく理解する。 地域にある家族会・認知症カフェを調べ、家族を支える取り組みについて理解する。
・単元テスト	R3年3月2日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストを行い、7割の正答を目指す。
小 計	15時間	時間				

7. 障害の理解

【基準時間3時間(うち通信上限1時間)】

【(1)障害の基礎的 理解】	R3年4月13日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	<ul style="list-style-type: none"> ICFとノーマライゼーションについて理解する。 障害の種類(※身体障害、知的障害、精神障害)や特性を理解する。生徒自身の障害受容の度合いに配慮して学習を進める。
【(2)障害の医学的 側面、生活障害、心理・行動の特徴、か かわり支援等の基礎 的知識】						
【(3)家族の心理、か かわり支援の理解】 ・単元テスト⑦	R3年4月20日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	<ul style="list-style-type: none"> 家族が障害を受け入れる過程や心理を知り、家族にどのようなかかわりや支援が求められるか理解する。 単元テストを行い、7割の正答を目指す。
小 計	6時間	時間				

8. こころとからだのしくみと生活支援技術

【基準時間24時間(うち通信上限12.5時間)】

I 基本知識の学習

【(1)介護の基本 的な考え方】	R3年10月18日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	<ul style="list-style-type: none"> ICFの視点に基づいた介護支援の仕方を理解する。 介護保険法1、2条を読み込み、理解する。 生活援助従事者が行うサービスの概要を把握する。 感情と意欲の関係性について理解する。 老年期の自己概念や生きがいを理解し、介護職の役割を理解する。
【(2)介護に関す るこころのしくみ の基礎的理解】						
【(3)介護に関す るからだのしくみ の基礎的理解】	R3年10月19日 9:00～12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	<ul style="list-style-type: none"> 生命を維持するしくみやからだのしくみについて理解する。

項目	通学日時 (時間)	通信 相当 分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要	
【(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解】	R3年10月25日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・体温計・血圧計の測定方法を実際に演習したり、ボディメカニズムを活用した基本的な動きのしくみを理解したりする。
【(1)介護の基本的な考え方】	R3年10月26日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・自律神経と内部器官の基礎知識を身につけ、こころとからだを一体にとらえる。
・単元テスト⑧	R3年11月2日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・単元テストを行い、7割の正答を目指す。
I 計	15時間	時間				
II 生活支援技術の学習						
【(4)生活と家事】 ・清掃支援	R2年6月8日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	・テーブル拭き、自在箒・掃除機の使い方を身につける。また、この項目については、本時から研修期間全体を通して継続的に指導していく。
【(8)睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護】 ・寝具の衛生管理	R2年6月26日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・良質な眠りがもたらすメリットを理解し、ベットメイキングの技術を身につける。また、この項目については、本時から研修期間全体を通して継続的に指導していく。
【(8)睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護】 ・寝具の衛生管理	R2年7月6日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	
【(6)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護】	R2年7月13日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	・利用者の自立心や自然な動きを妨げない介助方法を実際に車椅子を押ししたり、杖や歩行器を使ったりして体験的に理解する。
【(4)生活と家事】 ・衣類の補正	R2年9月7日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・ズボンの裾直しをする。 ・ボタンのついた小物づくりを通して、1本どり・2本どり・玉止め・玉結び・2穴ボタンの付け方を身につける。
【(4)生活と家事】 ・衣類の補正	R2年11月9日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	
【(5)快適な居住環境整備と介護】	R2年11月16日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	・住まいの役割を理解する。 ・高齢者、障がい者のための生活空間を理解する。
【(5)快適な居住環境整備と介護】	R2年11月30日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	・バリアフリーについて理解する。

項目	通学日時 (時間)	通信 相当 分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要 件	
【(4)生活と家事】 ・洗濯支援	R2年12月14日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・衣服の役割を理解する。 ・洗濯表示を理解する。 ・実際に洗濯をする。
【(4)生活と家事】 ・洗濯支援	R2年12月21日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	
【(9)死にゆく人 に関したところと からだのしくみと 終末期介護】	R3年1月18日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・終末期ケアにおける介護職 の役割を理解する。 ・死に向き合うところを理解 する。 ・死を受容する段階を理解す る。
【(7)食事に関連 したところから だのしくみと自立 に向けた介護】	R3年2月8日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・5大栄養素について理解す る。 ・食事摂取と嚥下のメカニズ ムを理解する。 ・食食用の福祉用具を実際に 使用して利用者の立場にた った食事のあり方について 理解する。
【(7)食事に関連 したところから だのしくみと自立 に向けた介護】	R3年2月15日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	
【(4)生活と家事】 ・買い物支援	R3年11月8日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・薬の受け取りと曜日ごとの ピッキング作業をする。
【(4)生活と家事】 ・買い物支援	R3年11月15日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・買い物のメモの取り方、食 材選び、支払い方、レシー トの保管について、体験的 に理解する。
【(4)生活と家事】 ・調理支援	R3年11月22日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	・ごはんなどの穀物をしっか り組み合わせたバランス のいい食事を「食生活指針」 から理解し、実際に調理す る。 ・誤嚥に気をつけたい食材に ついて知り、誤嚥を防ぐ調 理方法を理解する。
【(4)生活と家事】 ・調理支援	R3年11月29日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	
II 計	51 時間	時間				
III 生活支援技術演習						
【(10)介護過程の 基礎的理解】 ・介護過程の目的、 意義、展開	R3年7月6日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・介護過程の流れを理解する。
【(10)介護過程の 基礎的理解】 ・介護過程とチー ムアプローチ	R3年7月12日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[3] 永田 明日香	セ	・ケアプランについて理解す る。
III 計	6 時間	時間				
小 計	72 時間	時間				

(別紙様式4の2)

項目	通学日時 (時間)	通信 相当 分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				[番号] 氏名	要件	
9. 振り返り						【基準時間2時間(うち通信上限0時間)】
【(1)振り返り】 研修のまとめ①	R3年11月9日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	・单元ごとの大まかな内容と ポイントの復習をする。
【(1)振り返り】 研修のまとめ②	R3年11月16日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	・单元ごとの大まかな内容と ポイントの復習をする。
【(2)就労への備え と研修修了後におけ る継続的な研修】 研修のまとめ③	R3年11月30日 9:00~12:00 (3時間)	時間	福祉実習室	[2] 本郷 乃美加	セ	・就労に向けて今後の課題を 明確にし、働く生活をする 上での目標を立てる。
小計	9時間	時間				
合計	151時間	時間				

修了評価						【基準時間0.5時間以上】
項目	通学日時 (時間)	通信 相当 分	実施場所 人数等	担当講師		実施内容及び実施方法
				【講師番号】 氏名	要件	
修了評価	R3年12月7日 9:00~12:00 (3時間)	/	本校研修室	[3] 永田 明日香	セ	・評価テストをする。また、 今後の職業生活に向けて目 標を立てる。

- 注1 「項目」欄には、各科目を細分化した項目名又はその読み替えにより事業者毎に定める項目名を記載する。項目数が多く、欄が足りないときは、適宜追加して記載する。
- 注2 講義を通信の方法で行う場合、「通信相当分」欄に、通信で学習する内容に相当する講義時間数(科目毎に別紙4-2に定める時間数を上限とする)を記載する。
- 注3 「担当講師」の「番号」及び「要件」欄には、講師一覧表(別紙様式5)に記載した「番号」及び「講師要件」を転記する。
- 注4 「実施内容及び実施方法」欄には、講義及び演習の具体的進め方や時間、実習を行う場合は実習の内容や時間、方法等を記載する。欄内に記載できない場合は、科目毎に別葉に記載する。
- 注5 記入欄が不足する場合は、適宜欄を追加し、本様式に準じた様式で記入する。